

コロナ禍による米の需給改善と米価下落の対策を求める意見書

新型コロナウイルス感染症により外食産業の需要が大きく減少し、2020年産米の在庫に余剰が発生した影響で、2021年産米の価格が下落している。

北海道米の主力であるななつぼしにおいても、本年9月の相対取引価格の速報値が昨年より約2,800円下落した12,157円となるなど、米の生産者は深刻な状況に陥っており、今後の米作りへの不安の声が上がっている。

こうした状況を受け、政府は保管経費を支援している37万トンの2020年産米のうち、15万トンを特別枠としてさらに長期間支援するとしているが、市場の出回りを先送りしても古古米として低価格の米が市場に出回ることで、今後生産される2022年産米の需要の減少につながる懸念される。

併せて、全国各地で新型コロナウイルス感染症の影響で収入が減少し生活に困窮している世帯等への食糧支援の取り組みが行われているが、需要が減少している米を政府が買い上げ、食糧支援に活用することで、生活困窮者への支援だけでなく、米の生産者を支援することにもつながることが期待できる。

よって、国会及び政府においては、下記の措置を講ずるよう強く要望する。

記

- 1 コロナ禍の需要減少による米の過剰在庫を政府が緊急に買い上げ、米の需給バランスを改善し、米価下落に歯止めをかけること。
- 2 政府が買い上げた米をコロナ禍の影響を受けた生活困窮者や学生などへの食糧支援に活用すること。

以上、地方自治法第99条の規定により、意見書を提出する。

令和3年（2021年）12月9日

札幌市議会

（提出先）衆議院議長、参議院議長、内閣総理大臣、総務大臣、財務大臣、
農林水産大臣

（提出者）民主市民連合及び日本共産党所属議員全員並びに
市民ネットワーク北海道石川さわ子議員